



1_明星草庵に展示された座敷雛の前で談話する「明星ヶ丘いきいき会」会員。今回のイベントを成功に導いた立役者 2_元々旅館として使われていた建物に展示されたひな人形。階段を利用して展示する工夫が施されている 3_座敷雛の周りには手作りで作られた一つ一つの作品が並ぶ 4_商店街にあるタバコ店のショーウィンドウに、石に書いたひな人形をディスプレイ。歴史を感じさせる町並みにひな人形の鮮やかさが映える 5_大日吉神社に登る階段にも瓦に書かれたひな人形を展示 6・7_明星草庵に訪れた客をお茶、お菓子や会話でもてなしたいいきいき会会員。さまざまな交流が生まれた 8_ひな人形にくぎ付けのみどり保育所の園児。見せてもらった全ての場所で「ありがとう」と書かれたカードを渡し、感謝の心を学んだ



Interview

明星ヶ丘いきいき会の会長を務める

大森 時政さん

おおもり・ときまさ 70 下鍵山

私たちはひなまつり開催に当たり日吉の文化の発信地「明星ヶ丘」や、初代日吉村長である井谷正命さんが私財を投じて作った街並みにスポットを当てたいと思いました。

正直、これほどの反響があるとは思っていませんでした。来場者の数はもちろん、地域の皆さんが本当に好意的で一生懸命になって協力してくれたのです。私たちの会だけでは、人数的にも年齢的にも限界がありました。だから、私たちの思いを受け入れてくれたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私がつくづく感じたのは、地域が盛り上がるカギは「地域が一つになること」が大切だということです。一人一人、もしくは一つ一つの団体が単体で行うよりも、横のネットワークを広げて多くの人が参加することが、地域活性化への近道ではないかと思っています。難しいことかもしれませんが、それが鬼北町全体でできたらいいですね。



地域が一体となって作り上げたひなまつりは、県内外から訪れた多くの人を楽しませることで実を結んだのです。

強まった絆

いきいき会の「地域を盛り上げたい」という思いは、県境を越え、日本最後の清流四万十川の上流と下流で結ばれました。またひなまつりを通して強まった地域の絆。

今回つながった点と点は、線となり、そして線から面へと広がり、その交流を広げていくことでしょう。年齢、性別、地域に関係なく共通する「地域活性化」という思いがある限り。